

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

東大寺



仏教中心の国づくりを進めた聖武天皇の勅願により建立。国力を注いだ事業である大仏鑄造は3年をかけ、天平勝宝4(752)年、開眼供養会が盛大に営まれた。治承4(1180)年、平重衡の南都焼討ちによって大半の堂塔が焼失したが、重源の勧進で復興。しかし永祿10(1567)年に松永久秀の兵火にかかり、大仏殿等は再度被災した。現在の寺観は、江戸中期までに整えられたもの。境内には「奈良の大仏」として名高い盧舎那仏坐像が安置されている大仏殿、創建当時の遺構を残す転害門、法華堂をはじめ、鎌倉時代復興の代表作である南大門、鐘楼、江戸時代再建の二月堂といった数多くの国宝建造物がたち並ぶ。1998年12月に「古都奈良の文化財」として、世界遺産に登録された。

11-01 18-01

奈良市 奈良公園

春日大社



撮影：矢野 建彦

奈良時代の初めに創建され、神護景雲2(768)年、現在の地に本殿(国宝)が造営され、現在のような規模が整ったのは平安時代前期のこと。境内には、朱塗りのあでやかな社殿が立ち、古来より藤の名所としても有名。また、国宝・重要文化財520点を含む約3000点以上の宝物を収蔵しており、「平安の正倉院」とも称されている。皇室の尊崇に加えて、庶民の信仰も厚かったため、3000基におよぶ灯笼が奉納されている。一之鳥居(重要文化財)から表参道を行くと、春日大社神苑萬葉植物園がある。園内には万葉集に登場する草花約300種が植えられており、ゆかりの万葉歌が添えられている。背後の春日山を包む春日山原始林は、春日大社の社叢として保護されてきたことで、太古の姿を現在に伝える。(国の特別天然記念物に指定)1998年12月に「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録された。

23-04

7
奈良市 奈良公園

手向山八幡宮



東大寺建立に際し、宇佐八幡を守護神として創建された。元禄4年(1691)、本殿再建。宝庫(重要文化財)は東大寺から移築された校倉造の建築物。社室に唐鞍(国宝)、舞楽面(重要文化財)などがある。

23-02

奈良市 奈良公園

元興寺



写真：矢野 建彦

蘇我馬子が建立した日本最古の本格的寺院、法興寺(飛鳥寺)がその前身である。かつては、南都七大寺の一つとして奈良市街の南西部を境内とする広大な寺院だったが、現在は、僧坊遺構の本堂(極楽堂)と禅室を残すのみとなっている。本堂と禅室には建立当初の瓦や柱が今もなお一部に使われている。禅室は奈良時代の僧坊の形をとどめる貴重な遺構。法輪館には五重小塔(国宝)や聖徳太子立像(重要文化財)等を安置。中世～江戸期の貴重な庶民信仰資料(重要有形民俗文化財)なども収蔵されており、中世以降庶民に支えられてきた歴史を物語る。1998年12月に「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録された。

14-01

奈良市 ならまち

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

十輪院



もとは元興寺の別院であったと伝えられ、弘法大師の書の師といわれる朝野魚養が元正天皇の旧宮を拝領して開いたと伝えられる。中世以降は地藏信仰の場として知られた。本堂（国宝）内に祀られた花崗岩の石仏龕（石の厨子）（重要文化財）は、不動明王、仁王、七星九曜などが浮き彫りにされており、わが国の石造美術の中でも珍しいものとされている。龕とは仏像を納める厨子のこと。

16-02

奈良市 ならまち

瑜伽神社



奈良ホテルの東に位置し、古くは飛鳥京の鎮守社であったものが、平城京遷都とともに現在の地に移り、中世に至り興福寺大乗院の守護神として篤く崇敬された。一の鳥居から急な石段を昇ると鮮やかな朱の拝殿を迎えられ、振り返れば遠く大和三山を今も望める。春は桜、秋には紅葉の美しいことから万葉集にも「平城（なら）の飛鳥」と詠われている故地である。

13-01

奈良市 高畑

不空院



春日山・不空院はその名が示す通り、春日山を背に不空羂索観音を本尊とする真言律宗の古刹。春日の杜から高円山へと続く門前の小道には、今も古き奈良の風情が残ります。ここに足跡を残された弘法大師（空海）にちなみ「福井之大師」とも呼ばれ、「女人救済の寺」としても知られている。

24-01

写経 必要申込

奈良市 高畑

大安寺



聖徳太子によって平群に建立された熊凝精舎が草創。やがて飛鳥の地で百濟大寺、高市大寺、大官大寺と、名と所を変え、国の筆頭寺院として栄える。平城遷都に伴って現在地に移され、国の安泰と人々の安楽を祈る大寺として、大安寺と号した。華麗なる大伽藍には887名もの学侶が住して、さながら仏教大学の観を呈し、日本の祇園精舎と讃えられて、我が国仏教の源流をなすといわれた。中世以降、災禍などで伽藍消失したが、古来の息吹を伝える9体の天平仏像が今に残られ、法灯が護られている。今日は癌封じの寺として、遠近よりの参詣が絶えず、境内も少しずつ整備されてきて、人々の篤い信仰の輪が広がっている。

11-05

奈良市

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

西大寺



天平神護元(765)年、東の東大寺に対する西の大寺として、称徳天皇の勅願により建立。創建当時は南都七大寺の一つとして東大寺と並ぶ規模を誇ったものの、平安遷都や度重なる火災によって衰退した。鎌倉時代に観尊によって密教と戒律の教えを兼学併修する「真言律」の根本道場として復興。しかし、室町時代の戦乱で再び多くの建物を失うことになる。現在の建物はすべて江戸時代以降の建築。本堂前の基壇は東塔跡のもの。十二天画像(国宝)をはじめ、重要文化財に指定されている彫刻などが数多く残されている。大きな茶碗でお茶を回し飲みすることで知られる大茶盛式は、観尊が国土安泰を祈願して鎮守社神前に茶を献じたことが始まりといわれる。

24-02

奈良市 佐保・佐紀

法華寺



聖武天皇の皇后である光明皇后の発願により、総国分尼寺として建立。光明皇后の父藤原不比等の邸宅跡に建つ。東大寺を起点とした佐保路の西の端にあたる。平安遷都後一時は衰退したが、豊臣秀頼、淀君によって、慶長6(1601)年に本堂・南門・鐘楼(いずれも重要文化財)が再建された。本堂に安置されている十一面観音立像(国宝)は、光明皇后がモデルであると伝えられている。また、本坊の庭園は名園として有名。安産や厄除けの守りになる守り犬は、寺の尼僧の手によるもの。

20-04

奈良市 佐保・佐紀

海龍王寺



海龍王寺は天平3(731)年、遣唐使として中国に渡っていた初代住持の玄昉が、一切経と新しい仏法とを無事に我が国にもたらすことを願い、光明皇后によって創建されたとも伝わっており、お寺の場所が平城宮の東北の隅に当たることから「隅寺あるいは角寺」とも呼ばれている。玄昉が唐より帰国の途中、東シナ海で暴風雨に襲われた際に、海龍王経を唱えたと、かろうじて種子島に漂着し、奈良の都へ無事に帰ることが出来たことがきっかけで遣唐使の無事を祈願する寺院となり、現在も旅行・留学に赴く方々の信仰を集めている。境内には創建当初からの建物である、西金堂(重要文化財)と、堂内に安置されている高さ4mの五重小塔(国宝)が残り、特に五重小塔は天平時代に作られた塔の中で、唯一現存している五重塔として価値が高く、西金堂とともに天平時代の建築様式を現代に伝える貴重な建物となっている。

12-01

奈良市 佐保・佐紀

薬師寺



天武天皇が皇后(のちの持統天皇)の病氣平癒を願い造営が始められ、藤原京に完成。平城遷都に伴い、養老2(718)年、現在地に移築されたと伝わる。奈良移転当初は金堂、東西両塔、講堂、回廊が立ち並び、「竜宮造り」と呼ばれるほどの華麗さを誇ったこの寺も、16世紀に兵火に焼かれて灰となり、東塔(国宝)を残すのみとなった。創建当時の唯一の遺構である東塔は、現在に白鳳時代の様式を伝えている。現在、伽藍復興により、昭和51年の金堂に始まり、昭和56年に西塔が、以後、中門、回廊、大講堂などの白鳳伽藍が次々と再建されている。朱塗りの欄干、金色に輝く鴟尾などからは、建立当時の華やかさを窺い知ることができる。寺宝としては薬師三尊像や吉祥天女画像などがあげられる。1998年12月に「古都奈良の文化財」として、世界遺産に登録された。また2000年12月31日、平山郁夫画伯が約30年の歳月をかけて玄奘三蔵院「大唐西域壁画」を完成。

11-03

奈良市 西ノ京

※掲載内容は一部を除き、一般財団法人奈良県ピジターズビューローから借用しています。
また、季節の花は、同団体発行の「知れば知るほど奈良はおもしろい」の「花ごよみ」から、春の花を中心に紹介しています。

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

唐招提寺



唐の高僧鑑真和上が聖武天皇に招かれ、12年もの間、幾度にも及ぶ苦難の末に來日を果したのち、天平宝字3(759)年、新田部親王の旧邸を賜り創建。奈良の大寺のほとんどが勅願による官寺であるのに対し、この寺は鑑真和上発願による私院であることが特徴。境内には金堂、講堂、校倉(2棟)、鼓楼(いずれも国宝)をはじめとする伽藍が立ち並んでいる。これらは、朝廷などの寄進により徐々に整えられていったもので、現在でも創建時の姿を伺い知ることができる。また、天平彫刻の傑作も数多く安置されている。なかでも御影堂の鑑真和上像(国宝)は、わが国に現存する最古の肖像彫刻で、晩年をむかえた鑑真和上の深い精神性を感じさせる。開山堂前には、和上像に直面して芭蕉が詠んだ「若葉して御日の掬拭はばや」の句碑が立てられている。わが国に残る最大の天平建築である金堂(国宝)は、平成12年から約10年をかけて本格的な解体修理が行われた。(世界遺産「古都奈良の文化財」)

17-05

奈良市 西ノ京

靈山寺



天平8(736)年、聖武天皇の勅命で、行基が建立し、バラモン僧菩提偈那が地相がインド靈鷲山に似ているところから靈山寺と名付けたといわれる古寺。鎌倉中期(1283)に改築された本堂(国宝)には藤原時代作の薬師三尊像(重要文化財)など、優れた建築や彫刻を所蔵している。また、世界平和を願い、輪廻転生をテーマに昭和32年に開園した1200坪のバラ園には春と秋に約200種2,000株のバラが咲き誇る。

21-03

奈良市

般若寺



創建は飛鳥時代と伝わる古刹。寺伝によると629年高句麗の僧慧灌がこの地に寺を建て文殊菩薩像を安置したのに始まり、その後天平7年(735)聖武天皇の時、平城京の鬼門鎮護のため堂塔を造営されたと伝えられている。平安時代に平重衡の焼き討ちにあい衰退したが、鎌倉時代に再建された。宋から招かれた石工・伊行末の傑作として有名な鎌倉時代の十三重石塔が境内の中心に立つ。国宝に指定されている楼門は鎌倉時代の建立。また、本堂には本尊の文殊菩薩(重要文化財)が安置されている。初夏のヤマブキ、梅雨時のアジサイ、秋のコスモスと境内の石仏を折々の花々が彩る。

23-06

アジサイ 奈良市

帯解寺



かつては弘法大師の師である勤操大徳の開基巖瀬千坊の一院で豊松庵とよばれた。平安時代、文徳天皇の御妃染殿皇后(藤原明子)が帯解子安地藏菩薩に祈願し、清和天皇を無事安産された。それをお喜びになった文徳天皇は伽藍を建立、天安2(858)年、寺号を帯解寺に改められた。現在も安産・求子(子授け)祈願の寺として皇室にも岩田帯を献納し、全国から信仰を集めている。また、その昔小野小町が本尊地藏菩薩に病氣平癒や息災を祈願して度々参拝された。

18-06

奈良市

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

矢田寺



矢田寺（金剛山寺）は開基当時、僧坊48を数える大寺であった。現在は、矢田寺大門坊・矢田寺南僧坊・矢田寺北僧坊・矢田寺念佛院の4つの僧坊で通称を矢田寺といいます。また別称をあげさい寺といい、6月から7月のシーズンを迎えると境内には約60種10,000株のアジサイの花が咲き乱れる。平安時代初期に本尊となった地藏菩薩は「矢田のお地藏さん」として有名。広い境内には本堂、開山堂などが立ち並び、本尊の木造地藏菩薩立像をはじめ、数多くの重要文化財が収蔵されている。境内各所に石像が祀られており、中でも自家製の味噌を口元に塗ると味が良くなるとされる「味噌なめ地藏」（鎌倉時代後期）は名高い。

22-01

アジサイ
大和郡山市

長弓寺薬師院



聖武天皇の狩りの際、息子の流れ矢に当たって死んだ鳥見郷の豪族真弓長弓を悼み、神亀5年（728）、行基に命じて建立させたと伝わる。入母屋造檜皮葺きの本堂（国宝）は、和様に天竺様、唐様を加えた優美な建築で、弘安2年（1279）に再建された。室内には厨子（重要文化財）に納められた一木造の十一面観音立像（重要文化財）が安置されている。長弓寺には3ヶ寺の塔頭があり、その中の一つ薬師院にて開催。

13-03

アジサイ
生駒市

宝山寺



もともとは役行者や空海が修験の場として開いたこの寺を、延宝6年（1678）に宝山湛海が中興し歓喜天を祀った。般若窟と呼ばれる大岩壁を背景に本堂、聖天堂、多宝堂、絵馬堂などが立ち並ぶ。色ガラスのはまった獅子閣（重要文化財）は明治17年（1884）に迎賓館として建てられた洋風建築で、訪れる人の目をひく。現世のあらゆる願いを叶えてくれるとされ、生駒の聖天さまと呼ばれ親しまれている。中でも商売繁盛の現世利益や禁酒といった断ちものを祈願する庶民信仰の寺として知られる。

17-01

生駒市

龍田神社



龍田風神と呼ばれる風の神を祀る式内社。風を司る天御柱大神と国御柱大神を祀ったところ、五穀豊穰になったと伝えられる。近年は、風の難を防ぐことから航海安全に霊験があるとして信仰を集め、航海や航空の安全を祈願する参拝客が数多く訪問する。天武4（675）年から営まれているという風鎮祭が毎年7月第1日曜に行われ、風鎮太鼓や神楽を奉納する。祭は豪快な手筒花火でその幕を閉じる。

25-04

三郷町

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

石上神宮



大和屈指の古社。古代豪族物部氏の総氏神で、大和朝廷の武器庫だったとの記録もある。御祭神の布都御魂大神は神剣・霊に宿られる霊威。神武天皇がこの神剣によって、東征の際に悩まされた邪神を平らげたと伝えられている。かつては本殿をもたず、地中深く埋められた神剣と神宝を祀っていた。明治初期になって拝殿奥の禁足地の発掘を行ったところ、神剣霊をはじめ数々の大刀や鏡、玉類などが出土した。国宝の拝殿は神社建築としては最古のもので白河天皇の御代に宮中から神嘉殿を移築したものと伝えられている。楼門前石段上に建つ摂社出雲建雄神社の拝殿も国宝である。

22-02

天理市

大神神社



三輪明神ともいわれ、日本で最古の神社とされている。この神社に本殿がないのは、後方にそびえる三輪山を御神体としているため、古代の信仰形態を現在に伝えている。

寛文4(1664)年、徳川家綱によって再建された拝殿(重要文化財)奥には、三輪鳥居とも呼ばれている三ツ鳥居(重要文化財)があり、古来より、この鳥居を通して御神体の三輪山が拝まれている。祭神は大物主大神。

大和七福神(信貴山朝護孫子寺、久米寺、長谷寺、おふさ観音、談山神社、當麻寺中之坊、安倍文殊院)に大神神社が加わり、大和七福八宝の会を足発。

ササユリ

桜井市

20-01

談山神社



藤原鎌足の遺骨を摂津国阿威山からこの地に改葬し、鎌足の長男定慧が木造十三重塔(重要文化財)を建てたことに始まる。弟の藤原不比等が神殿を建立し、父の像を安置したとされる。かつては妙楽寺という寺と一体だったが、明治初めの神仏分離令後、神社だけが残った。社名は鎌足が中大兄皇子と蘇我入鹿を暗殺するために談合をした「談い山」からとったもの。多武峰の山中には楼門(重要文化財)、本殿(重要文化財)、権殿(重要文化財)をはじめとする朱塗りの華麗な本殿が建ち並ぶ。漆塗極彩色、三間社春日造の本殿には鎌足像が祀られており、日光東照宮の手本になったといわれている。現在の塔は室町再建で高さ17m。古塔の中では現存唯一の遺構である木造十三重は、鎌足の墓塔といわれている。紅葉の名所としても有名であるが、境内を桜が彩る春、新緑の季節、雪化粧が見事な冬と季節を問わず美しさを堪能することができる。

12-05

桜井市

當麻寺奥院



當麻寺塔頭奥院は、浄土宗総本山知恩院の「奥之院」として建立された寺で、最初は往生院と呼ばれていました。知恩院第十二代替阿普観上人が知恩院のご本尊として安置されていた法然上人像(重文)を後光厳天皇の勅許を得て応安三年(1370)当地に遷座して建立した寺で爾來、浄土宗の大観音、談山神社、當麻寺中之坊の信仰を集め、今日まで護持継承されて来た名刹。

本堂、大方丈、楼門(以上重文)阿弥陀堂、庫裡等、今に残る伽藍に往古の宗教活動の偉大さがうかがわれる。

ホタン

葛城市

22-04

※掲載内容は一部を除き、一般財団法人奈良県ビジターズビューローから借用しています。

また、季節の花は、同団体発行の「知れば知るほど奈良はおもしろい」の「花ごよみ」から、春の花を中心に紹介しています。

奈良らしい会場の代表でもある、古都奈良の社寺。
歴史を感じる舞台上、コンサートの音色をお楽しみください。

信貴山朝護孫子寺



用明天皇2年(587)、聖徳太子によって創建された。平安時代以降は武人の信仰を集めた寺である。標高437mの信貴山中腹に位置し、福德開運の毘沙門として今なお庶民信仰が篤い。信貴山の起こりは、太子が寅の年の寅の日、寅の刻に現れた毘沙門天を感得し祀ったことという言い伝えによるもので、境内の至る所で張り子のトラを見ることが出来る。トラはこの寺の守護神でシンボルとなっている。山腹にある広い境内には本堂の他、護摩堂、三重塔など数十棟の堂宇が立ち並ぶ。本堂から見渡す奈良盆地の眺めは絶景。寺室の信貴山縁起絵巻(国宝)は霊宝館で10月末から2週間のみ公開される。楠木正成の鎧・兜などの寺宝は霊宝館で常時みることが出来る。

16-01 16-03

平群町

岡寺



天智天皇2年(633)、義淵僧正が草壁皇子の岡宮をもらい受け創建。当初、伽藍は別の場所にあった。岡宮をもらい受けたことから岡寺と呼ばれているが、正式には龍蓋寺という。現在は山の中腹に江戸時代の書院(重要文化財)や仁王門(重要文化財)、本堂が佇む。本尊は天平時代作で女性の厄除け観音として信仰を集めている如意輪観音坐像(重要文化財)。像高4.6mでわが国最大の塑像。西国三十三カ所観音霊場第7番札所でもある。四季折々の花が美しい。

シャクナゲ

明日香村

21-04

壺阪寺



正式には、南法華寺という。西国六番の札所で、創建は文武天皇大宝3年(703)法相大徳弁基上人の開基で、正式名称を壺阪山南法華寺といい、長谷寺とともに古くから観音霊場として栄えた名刹である。36堂60余坊の大伽藍も、4回の火災で焼失し、現在は室町時代に建立された三重塔、礼堂が残る。共に、国の重要文化財。本尊は千手観音、「日本感霊録」のなかにこの壺阪観音の信仰によって開眼されたという説話があり、これをもとに浄瑠璃「壺坂靈験記」が創作され、一躍有名になった。昭和58年に開眼された大観音立像は高さ20m、重さ1,200トンもあり天竺渡来である。また、平成19年には、総高15m(台座含)の天竺渡来大釈迦如来石像が開眼された。

14-02 14-05

ヤマブキ

高取町

金峯山寺



吉野山の尾根上に高くそびえる。金峯山寺は飛鳥時代に修験道の開祖、役行者によって開かれた。安土桃山時代の再建である現在の蔵王堂は、木造古建築としては東大寺大仏殿に次ぐ大きさを誇る。本尊は3体の蔵王権現。いずれも高さ7mの巨像で、国内最大級の厨子に納められた秘仏。秘仏蔵王権現は平成24年から10年間、毎年一定期間、国宝仁王門修理勧進のため、特別にご開帳されている。(世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」)

吉野町

17-02

※掲載内容は一部を除き、一般財団法人奈良県ビジターズビューローから借用しています。
また、季節の花は、同団体発行の「知れば知るほど奈良はおもしろい」の「花ごよみ」から、春の花を中心に紹介しています。